

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私はメディア系の中でも特に映像を創ることに興味があり、そのスキルを高く身につけたいと考えていたので、演習室やスタジオなど施設が整っていて、専門的な学習の出来る同志社女子大学を志望しました。

(2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1 学期〕

この時期はまだ志望校を決めておらず、様々な大学を調べていました。自分のアピールポイントを増やしたいと考え、行事の実行委員に積極的に立候補したり、生徒会幹部に所属し学校を動かす者として行動しました。私の高校ではSDGsをテーマとした文化祭があるので、クラスで1つテーマを決めて、企業に取材をし情報を得て、クラスの間と共に展示を制作しました。こういった行事は受験にも役立つので、クラス全員で良いものを作ろうと力を入れていました。

〔夏休み〕

まだ同志社女子大学を受験することを考えておらず、他大学のAO入試のための資料作成をしていました。学校で夏期講座があったので、勉強はしていましたが、AO入試対策が忙しいことを言い訳にして、家庭勉強を疎かにしていたことを今は反省しています。通学のバスの中や休み時間をもっと有効に使うべきだったと思います。

〔2 学期～入試直前〕

10月初めに同志社女子大学の推薦入学試験を受けることを決めたので、スタートとしては1日遅れをとっていたと思います。（それまでは小論文対策や面接の練習を中心にやっていました）受けると決めてすぐに同志社女子大学のホームページで資料請求し、過去問を入手しました。過去問を見ながら問題の傾向を見つけ、先生に協力してもらって同じような形式の問題を採って解いていました。入試の1週間前くらいから過去問を解き始めました。私のように遅いスタートでも、短い期間で傾向と対策が可能なので、焦らずに勉強することが大切だと思います。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は両立がとて苦手で、どちらか片方にしか全力を出せなかったもので、1学期はほぼ行事と部活に力を入れていました。しかし、1日だらだらとするのではなく、実行委員になり、後輩の指導をしたりして、自分を人として成長させるための時間となり、決して無駄な時間ではありませんでした。

私は家だと集中力がすぐ切れてしまい、平日は学校に残って勉強するようにしていたため、自然とスマホの使用頻度も減っていました。SNSをやめることも考えましたが、逆にそれがストレスになるので、息抜き程度に見ていました。テレビに関しては、遅くまで学校にいたので録画がほとんどで、模試の後などにご褒美として見ていました。受験生だからと色々なことを我慢するのではなく、ストレスフリーな生活を心がけていました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

1人さんの不安に押しつぶされて、自分を見失ったり、逃げ出しになることもあるかもしれません。しかし、自分が選んだ道は決して間違っていないし、やってきたことは必ず実ります。心を不安にさせないように、「自分は最強1人!」と常に言い聞かせておいてください。絶対に乗り越えられます! 私を応援しています。